

こすもスマイル 58号

発行／小林市立病院 地域医療連携室 令和4年12月

～看護部長のあいさつ～



最近、日が落ちるのが早くなり、冬が少しずつ近づいているのを感じます。また、電線にたくさんのツバメたちが整列しているのをみかけますが、渡りの準備でしょうか？

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため引き続き面会が制限され、患者さんやご家族にはご不自由をおかけしていますが、ご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、今年度看護部には、新人看護職員2名を含む6名の新規採用者が入職しました。また、認定分野では、摂食嚥下障害看護認定看護師が誕生しました。日本人の死亡原因の4位とされる肺炎は誤嚥によるものが70%を占めるといわれていますが、言語聴覚士と協働し、嚥下機能ケアの強化を図ることができると思います。さらに、9月から入退院支援部門に3名の看護師と1名のメディカルソーシャルワーカーを配置しました。入院前から退院後の在宅療養に至るまで、切れ目のないシームレスな支援の提供のために、体制を整備していきたいと考えています。外来および各病棟に専従のスタッフを配置していますので、ご相談がある方はお声かけください。

現在、院内では医師・看護師をはじめ多職種が協働し、BLS（一時救命処置）やSBAR研修を行っています。SBARとは、医師や看護師などの医療現場職で普及している、迅速かつ適切なコミュニケーションを促進するための技法です。医療従事者にとって多職種と協働するためには、コミュニケーションはとても大切なスキルのひとつです。SNSの普及やコロナの影響で人と人のつながりや会話が希薄になりがちですが、この研修を臨床現場で活かせるよう看護部全員で努めてまいります。



BLS研修修了者バッジは、看護部がデザインしたものが採用されました

小林市立病院 看護部長 武田 愛

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します





外来紹介



12月に入り、クリスマスツリーが目を楽しませてくれる季節になりました。

外来看護師 15 名は寒さに負けず、感染対策を行いながら日々よりよい看護が提供できるように励んでいます。

今回は外来の「チーム医療」について紹介します。

「チーム医療」とは、医療職が互いに連携をとって、患者さん中心の医療を提供することです。病院内には、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・メディカルソーシャルワーカーなど様々な職種のスタッフがいます。外来看護師は、患者さんの食事に関する悩みは栄養士へ、介護等の悩みについてはメディカルソーシャルワーカーに相談できる様に調整し、連携を図っています。

特に高齢化が進む西諸地域においては、急な症状で救急搬送される高齢者世帯も多く見られます。入院から退院して在宅で過ごすために、医療と介護等の連携したチーム医療の提供に取り組んでいきたいと思います。

外来 副看護師長 大神 洋子



薬剤室紹介



薬剤室では薬剤に関連するさまざまな業務を行なっています。薬は正しく使用すると症状を改善してくれる有益なものですが、使い方を誤ると危険なものへ姿を変えるため、薬剤が適正に使用されるよう管理することが薬剤師の最も重要な役割です。

処方された薬について様々な観点で適切であるか確認しながら調剤を行なっています。しかし、注意をしても薬の名称や見た目が類似していると、取り違える危険性があります。そのような過誤を確実に防止するため、今年度より調剤をサポートする機器を導入しました。これは薬品のバーコードを利用して照合を行うシステムであり、安全性が格段に向上しました。

また、調剤機器の入れ替えを行い業務効率化することで、より多くの場面で薬剤師が関わり、医薬品適正使用の推進に貢献できるよう改善を重ねています。

私たちは「一人一人の患者さんにとって最善の薬物治療を提供する」を理念に取り組んでいます。薬について困ったことがあれば是非薬剤師にご相談ください。

薬剤室長 石橋 直哉





検査室紹介



臨床検査室には臨床検査技師が5名在籍し、血液、尿など人体から採取した検体を検査する検体検査、直接、体の状態を調べる生理検査の検査業務を行っています。

生理検査の中には患者さんの体にプローブをあてて体の状態を調べる超音波検査があります。画像検査のなかで一番簡便で負担も少ない検査が超音波検査です。超音波検査で高い診断が得られる疾患の一つに脂肪肝があります。

脂肪肝とは食べ過ぎや運動不足により中性脂肪を主とした脂質や糖質が肝細胞内に異常に蓄積した状態を言います。今や日本人の3人に1人が脂肪肝と言われます。

従来は軽い病気と考えられていましたが、最近肝硬変や肝臓がんへと進行する可能性があり、様々な生活習慣病のリスクも高めることが分かってきました。ふだんはお酒を飲まない人や若い女性にも脂肪肝になる人が急増しています。



脂肪肝はほとんど自覚症状がないため健康診断や人間ドックで肝機能が異常値となり発見される事があります。気づかいうちに進行すると倦怠感、食欲不振、腹部膨満感などの症状が現れ、肝硬変・肝臓がんになる可能性が高くなるので、早めの検査をおすすめします。

当検査室では、患者さんの病気の診断や治療の為に正確な測定結果をより速く医師に報告できるよう、緊急の患者さんにも対応し、24時間体制で検査を行っています。

臨床検査技師 川崎 さゆり



西諸華道連盟の皆様から
すばらしいお花をいただきました。



こんにちは♪産婦人科外来です

宮崎大学医学部附属病院産婦人科と県立宮崎病院産婦人科から非常勤医師が交代で派遣され、毎週金曜日（変更の場合あり）に産科・婦人科の診察を行っております。



当院では分娩は取り扱っておりませんが、ご希望される産科（分娩）施設や提携先病院（都城医療センターなど）で分娩を予定されている妊婦さんの妊婦健診を行っています。妊娠初期から、妊娠 32 週頃（9 か月に入る頃）まで受けることができます。（提携先病院の指示によっては、分娩直前まで受けることが可能な場合もあります。）

妊婦健診は、お母さんの健康状態や赤ちゃんの成長を確認するためにとっても重要な健診で、必ず受ける必要があります。また、妊娠・出産・育児には不安や心配事がつきものです。妊婦健診時に、妊娠・出産や育児に関する悩みや不安を、産婦人科医師や助産師に相談してみませんか？

より安心して妊娠期間を過ごし、ご希望される産科（分娩）施設や提携先病院で無事に分娩できますようにサポートさせていただきます。



助産師 角井 久美子

スタッフのひとこと

毎日、短い日記を書いています。師走に入りいよいよ手帳のページが終わり近くなり、新しい手帳やカレンダーを目にするようになりました。

コロナ禍も、はや 3 年を過ぎ入院患者さん、ご家族が自由に面会できるよう、来る年が静謐な年でありますよう一陽来復を心より願っています。



医療ソーシャルワーカー 鶴 千江美

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp